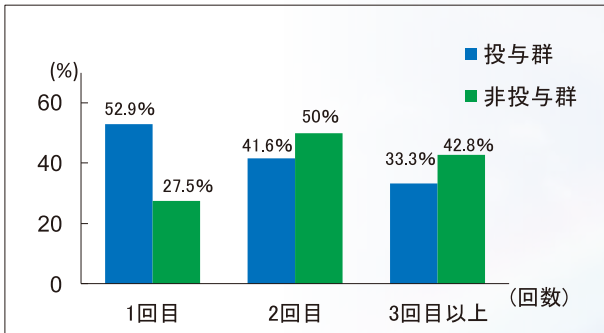


人工授精技術研究大会に参加して

10月16、17日に第70回北海道畜産人工授精技術研修記念大会が、札幌市のさっぽろ芸術文化の館にて行われました。この大会は、受胎率の向上や農家の経営改善を目標に研究・調査を行っている技術者や関係機関の方々が日々の努力を発表しあい、技術向上を目的とする大会です。

授精回数別受胎率



全道各地区から30題の研究発表がありました。釧路地区からは5題で、そのうちの1題は繁殖部会としてデータ解析を行った発表でした。それは、「ホルスタイン種経産乳牛における人工授精後5日目のhCG製剤の投与効果」です。近年低下の途をたどる乳牛経産牛の受胎率低下を改善する一手段として、人工授精後5日目のhCG製剤投与の効果についてのデータ解析を行いまとめたものでした。

過去に、未経産牛のリピートブリーダーに対し、人工授精後5日目に3000単位・1,500単位のhCG投与を行うと受胎率が高くなる傾向を得られていました。そこで今回は更に単位数を下げ、ホルスタイン種経産牛に対し投与を行った場合も同様の効果を得られるかを調査したものです。hCGは単位によって価格に差があり、より低単位で安

価な1000単位を使用しても同様の効果を得られれば、実用的なのではないかという発想から始めました。

今回はサンプル頭数が少なく正確な結果まで出すことはできませんでしたが、授精回数が2回目以降に投与を行うより、初回授精の際に投与を行う方が受胎率向上に影響している傾向があることがこの調査で考察できました(グラフ)。これだけでは、実用的に使用することまで推奨することは難しいですが、受胎率向上の一手段としてこの様な方法もある事を知っていただけたらと思います。

受胎率を低下させる要因は、多頭化や飼養環境の変化、高い産乳能力や体型の大型化を目指した改良等々もあり、ホルモン剤にのみ頼る受胎率の向上は難しいのも事実です。繁殖部会では、今後も色々な角度から繁殖改善を目標とした活動を行い、

組合員さんの力となれるよう、獣医師・授精師一丸となり活動を続けていきたいと思えます。

標茶改良課 長澤 安衣

